

要 望 書

東彼杵 I C ～佐世保大塔 I C までの
地域高規格道路『東彼杵道路』の整備について

平成 2 6 年 1 2 月 1 9 日

長崎経済同友会

今、長崎県では二つの世界遺産候補を抱え、平成34年には九州新幹線西九州ルートが開業予定である等、人口減少のなかで交流人口拡大による地元経済の活性化を図るべく、さまざまな試みが必要な時期にきています。

平成25年8月29日に発表した長崎県総合計画推進会議の『県民所得向上及び人口減少対策の推進に向けた産学官協働宣言』「3. 観光の振興」の中で、「本県の豊かな歴史、文化、自然等の魅力を磨き上げ、質の高い観光情報を発信し、県内外からの誘客促進に取り組みます。また、広域的観光の活性化を図るため、広域観光拠点へのアクセス機能の強化や、環境に優しい交通網等の基盤整備の充実に取り組みます。」と宣言しているように、広域観光の活性化には、円滑な県内交通網の整備が不可欠と言えます。

しかしながら、県南と県北を結ぶ道路網に関して言えば、現在、西彼道路の整備が進捗しているものの、県内ネットワークを円滑にし、交流人口の回遊性を高める視点から見ると、大村湾東側の東彼杵IC～佐世保大塔ICを短時間で結ぶ、地域高規格道路『東彼杵道路』の整備を急ぐ必要があります。

交流人口拡大の面から見た『東彼杵道路』の必要性は次のような事が言えます。

(1) 長崎空港利用促進に必要である。

県北への高速リムジンバスの時間短縮により、長崎空港を利用する県民や観光客、ビジネス客の利便性が向上します。具体的には、佐世保市やハウステンボス、九十九島への観光客、ビジネス客が長崎空港発着の航空機を利用しやすくなります。

(2) 県外、佐世保、県南へ流れる観光ルートが期待できる。

現在、隣県の佐賀県からハウステンボスへ入ってくる観光客を県央、県南へ結びつけ、逆に長崎市からハウステンボス、佐世保市、佐賀県嬉野市、武雄市へ回遊する広域での観光ルートが、新幹線各駅との連携で期待できます。

特に二つの世界遺産候補を抱える長崎県は、これから増加していく交流人口に対応する交通ネットワークを早急に整備する必要があります。

当該『東彼杵道路』については、すでに「東彼杵道路建設促進期成会」（会長朝永則男佐世保市長）が、平成25年12月26日に、長崎県に対して「災害に強い道路ネットワーク（命の道）の構築」の一環として東彼杵道路の整備の要望書を提出し、平成26年7月18日の同期成会総会では「計画段階評価の早期着手」を要望するなど、県北の行政の長や議会議長を中心に活発に要望されています。

また長崎県議会においても、その必要性を

- （１）緊急医療時の患者の搬送（特に大村の国立病院）時間の短縮。
- （２）災害時の国道205号線の代用道路。
- （３）県北・県央・県南を結ぶ生活道路としての必要性。
- （４）長崎空港へのアクセスの改善と県北からの長崎空港利用者の増強。

といった内容で活発に議論されています。

しかし、長崎県では東彼杵道路の必要性は十分承知しているのご見解ですが、その取組に関しては西彼道路や西九州自動車道（松浦～佐々間）等の先行事業もあり、明確な結論を出されていないのが現状であると認識しています。

そこで今回、長崎経済同友会では、上記「東彼杵道路建設促進期成会」による「命の道」としての必要性に加えて、長崎県が表明されている交流人口の拡大による地元経済の活性化に資する、県内の「広域的観光の活性化を図るため、広域観光拠点へのアクセス機能を強化」する一環として、地域高規格道路『東彼杵道路』の早期整備に一刻も早く取り組んでいただくよう強く要望します。

【要望事項】

1. 国道205号佐世保市～東彼杵町（東彼杵道路）
の計画段階評価への早期着手
2. 安定、持続的な道路整備のための予算確保

長崎経済同友会

代表幹事 宮脇 雅俊

代表幹事 坂井 俊之

代表幹事 田中丸善保

長崎経済同友会 県内地域交流委員会

委員長 佐々木 達也

副委員長 坂根 康伸